

農事組合法人中山牧場

※2017年3月現在

代表者名	中山 裕	資本金	1百万円
設立年	1993年8月13日	売上高	1,210百万円 (2015年12月期)
事業内容	生産(肉用牛)、食肉販売、加工・製造	経営規模	畑0.8ha、加工施設200㎡(食肉加工)、直売所20㎡(販売アイテム数:約50種類)、肥育牛1,860頭、その他(繁殖牛140頭)
従事者数	27人(うち女性14人。*グループ会社合計 女性内訳:役員3人、一般職6人、常勤パート5人)		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> <p>産前産後休業、育児休業、時間外労働及び深夜業の制限、育児休業後の継続就業支援</p> <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> <p>施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワーの設置)、重労働等の業務改善</p>		



経営概況

(農)中山牧場は、佐賀県東松浦郡玄海町で佐賀牛の肥育繁殖一貫経営を行っている経営体である。農事組合法人として1993年に設立。経営安定のために、「利益は次の投資へ」をモットーに事業展開を行い、2003年に父親から事業を引き継いだ中山裕氏が代表となっている。

その後2015年には、中山牧場がさらなる発展

を望めるように、生産部門を「(農)中山牧場」、食肉販売部門を「(株)中山牧場」と経営を分離させ、後者は代表の妹である敬子氏の長男が代表となって経営を行っている。

生産の規模は、肥育牛1,860頭、繁殖牛140頭で、年間約1,000頭をJAを通じた市場出荷販売を行う。うち10%(約100頭分)を、(株)中山牧場の直売所で加工販売(小売、卸)している。2015年度の売上は12億1千万円で、うち1億5千万円が食肉販売(直売)の売上となっている。

直売所内には食肉加工施設があり、新鮮な佐賀牛が店頭に並ぶ。また予約制のレストランも併設されており、低価格で気軽に佐賀牛を食べることができる。

従事者の構成は、(農)中山牧場(役員:男性2名・女性2名、一般職正社員:男性8名・女性2名、常勤パート:女性2名)、(株)中山牧場(役員:男性1名・女性1名、一般職正社員:男性2名・女性4名・常勤パート:女性3名)となっており、平均勤



続年数は男性社員13年、女性社員8年、常勤パート15年と、非常に定着率が高い。

1. 女性視点による人材のマネジメント

代表の妹で営業部長である敬子氏は、「自分たちで育てた牛を自分たちの手で皆様にお届けしたい」という思いから、1997年に食肉販売部門を立ち上げ、食肉加工販売を行ってきた。加工直売することは、肉質を向上させるためのとても大事な過程でもあり、自分たちが育てた牛を加工することで、飼養の成果をきちんと見極め、さらに現場に反映させることができる。

その中で、食材として品質がよくない牛肉（病気や怪我をしていたり、出荷できる状態に成熟していない牛）は、いくら調理・加工してもおいしくないことに気づき、生産する段階での重要性、人材育成に視点をおいた。

敬子氏は今までの飼養管理を一人体制から正社員とパートの2名体制にし、各チームが切磋琢磨し合いながら飼養管理に取組み、評価しあう体制になった。その結果は、牧場全体の意識統一へとつながり、近年では枝肉共奨会でたびたび表彰されるようになっていく。

2. 女性たちが助け合える職場づくり

敬子氏自身がシングルマザーで子育てをした経験から、女性でも男性並みにメインで働きたい女性がいるのはもちろん、サポート的な作業に向いている女性がいることも理解しており、様々な働き方が可能であると考えている。そのため、従業員一人一人がどのように働きたいかを把握して、仕事を割り振るようにしている。

食肉販売部門では、多くの従業員が子育てを経験していることからお互いの苦労を理解し合っている。そのおかげで、送迎などで使える“時間休

制度”の導入や、出勤時間の急な変化にも対応できるように、コミュニケーションが図られている。必要があれば子供を連れてでも働けるような体制も整えている。

また、直売所のバックヤードには休憩室があり、男女別の屋内外トイレも設置されている。

3. 女性のキャリアアップと商品開発

食肉加工施設の担当者には、食肉食品衛生の研修へ継続的に参加させ、精肉販売をするのに必要な食肉衛生責任者の資格取得を推進している。

さらに女性が店舗運営をすることで、消費者目線での商品開発（自家製ハンバーグ、レバー、モツを加工した冷凍商品等）が行われ、売上の増加にも繋がっている。

2016年に開設した2店目の直売店舗では、女性の活躍によって支えられてきた食肉加工部門の経験を活かし、佐賀牛ブランドの更なる信頼を築くため、自社だけでなく地元「唐津・玄海」の畜産農家の牛肉の加工・販売も開始した。

審査委員の声

年末の佐賀牛の直売所は賑わっていた。消費者を引きつける佐賀牛の味は、愛情をもって牛を育て、従業員同士で助け合って働こうとする従業員のモチベーションに支えられていた。

中山敬子さんの子育て経験が、従業員の適性を見極め、働きやすい環境を整え、(農)中山牧場と(株)中山牧場が両輪で動く体制につながっていた。地元「唐津・玄海」の畜産農家とともに女性活躍でさらにおいしい佐賀牛が育つことを期待したい。